

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地										
日本文理大学 医療専門学校		平成16年3月19日	豊住 昭和	〒870-0397 大分県大分市一木1727 (電話) 097-524-2857										
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地										
学校法人理学院		昭和30年3月16日	菅 貞淑	〒870-0397 大分県大分市一木1727 (電話) 097-592-1600										
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士									
医療	医療専門課程	診療放射線学科		平成17年文部科学省 告示第三十号	—									
学科の目的	放射線撮影装置を駆使するため、必要となる専門知識や撮影方法に関する技術の修得を目的として、読影力の高い「診療放射線技師」の資格取得を目指す。													
認定年月日	令和3年3月25日													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験								
3年	昼間	2610時間	1935時間	45時間	450時間	135時間								
生徒総定員	生徒実員	留学生数 (生徒実員の 内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数									
240人	214人	0人	9人	11人	20人									
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 100点を満点とし、60点以上を合格とする。										
長期休み	■学年始:4月1日～4月3日 ■夏季:8月5日～9月24日 ■冬季:12月23日～1月18日 ■学年末:2月13日～3月31日		卒業・進級 条件	進級要件:当該学年で修得する履修科目のすべての単位を 修得したもの 卒業要件:3年以上在籍し、本校教育課程のすべての単位を 修得したもの										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 常に担任が出席状況を把握し、欠席が続く場合は保護者へ 連絡する。		課外活動	■課外活動の種類 ・学生会組織 ・ボランティア ■サークル活動: 有										
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成31年度卒業生) 医療機関(病院、診療所) 健診機関 ■就職指導内容 進路探求セミナー(面接講習・履歴書記載法講習) 面接指導 ■卒業生数 : 53 人 ■就職希望者数 : 50 人 ■就職者数 : 50 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94.3 % ■その他 就職希望者ではない3人については、国家試験不合格者の ため、 聴講生もしくは自主学習により再受験予定。 (平成 31 年度卒業生に関する 令和2年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成31年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <tr> <td>資格・検定名</td> <td>種</td> <td>受験者数</td> <td>合格者数</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師 国家資格</td> <td>②</td> <td>52人</td> <td>50人</td> </tr> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③の いずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得する もの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (平成31年度 卒業生53名の資格取得状況) 第Ⅰ種 放射線取扱主任者資格 取得者数 11名 第Ⅱ種 放射線取扱主任者資格 取得者数 46名			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	診療放射線技師 国家資格	②	52人	50人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数											
診療放射線技師 国家資格	②	52人	50人											
中途退学 の現状	■中途退学者 5名 平成31年4月1日時点において、在学者182名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者177名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 成績不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制度を導入し、個別面談による学修支援を実施		■中退率 3%											

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入</p> <p>①特待生制度・・・新入生は入学試験、在校生は定期試験により、成績優秀者には当該年度の年間授業料を減免します。 (特待生A:50万円免除 特待生B:30万円免除 特待生C:10万円免除)</p> <p>②入学金・授業料奨学融資制・・・金融機関と提携して、入学金及び年間授業料等の半分の範囲内で希望金額が融資されます。 (本校在学中に発生する利子は本校が負担しますので、在学中は経済的負担が発生しません。)</p> <p>■専門実践教育訓練給付：非給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価：無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p><a href="https://iryounbu.ac.jp/index.php">https://iryounbu.ac.jp/index.php</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野における医療技術者の養成に必要な知識ならびに技術について一貫した教育を施すため、地域企業や外部人材と連携し、より実践的な教育課程を編成することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

年2回開催する教育課程編成委員会で、カリキュラム内容や学内・学外実習において、委員より実践的な意見を聴取している。その情報を学内で共有して、授業計画や学生への指導方法などに役立て、審議内容であれば、教職員会議にて校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
豊住 昭和	日本文理大学医療専門学校 校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
衛藤 路弘	日本文理大学医療専門学校 教務主任兼学	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
小野 泰司	日本文理大学医療専門学校 教務副主任	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
吉田 幸人	大分県放射線技師会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	①
桑原 宏	佐賀関病院 放射線室 室長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間の開催数：2回 開催時期：6月と11月

(開催日時(実績))

第1回 令和元年 6月26日 18:20～19:50

第2回 令和元年11月12日 18:20～20:05

第1回 令和2年 7月28日 18:30～19:45 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、7月に延期。

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

(改善事項)

・カリキュラム改正後、実践的な臨床実習の実施が可能となるが、臨床実習指導者資格の取得率が低い。

・必要な単位数が増加されているなか、3年制教育では時間的に余裕がない。

⇒現行の95単位から102単位に法改正が予定されているが、3年制でも何とかカリキュラムを組むことができるが、学生が学習についていけるか懸念している。4年制教育も含めて対応を検討する。

(検討課題)

・4年制教育の検討

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

病院施設と連携した臨床実習により、実習を受ける学生には、診療放射線技師が行う業務について現場体験することで、学内で学んだことを再認識すると同時に、より実践的な技術を学び、医療人としての自覚を持ってもらう。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習前に実習生に対して学校教員による事前指導を行い、実習期間や実習に対する基本事項を伝える。実習開始前に実習先と打ち合わせにより、実習内容および学生の学修成果の達成度評価指標等について定める。実習期間中は、教員が実習施設を訪問し、学生の学修状況を確認するとともに必要に応じた指導を行う。実習修了時には、実習で学んだ知識や技術を報告する臨床実習発表会を開催し、臨床実習での達成度を学校教員と実習先の指導者で確認し、最終的な成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	病院で行われる診療放射線技師に関する業務を見学・体験する中で基礎知識・技術を再確認し医療チームの一員としての責任と自覚を養う。	大分県立病院、アルメイダ病院、大分赤十字病院、大分医療センター、別府医療センター、大分岡病院等 総数 123施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

社会のニーズに応えることのできる即戦力及び臨床能力の高い医療技術者を育てるために、より実践的な教育が必要となり、教員の資質向上は必須の条件となる。そこで、研修規程を定め、計画的かつ継続的な研修受講を支援し、教員の資質向上を図る。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 JRC2019 」(連携企業等: 日本医学放射線学会・日本放射線技術学会・日本医学物理学会)

期間: 平成31年4月11日(木)～14日(日) 対象: 診療放射線学科 教員

内容: 放射線医学や放射線技術学に関連する学術団体が共同開催する学術大会や展示会への参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 学級経営セミナー in 大分 」(連携企業等: 日本図書文化協会・大分県教育委員会・大分市教育委員会)

期間: 令和1年12月26日(木) 対象: 診療放射線学科・臨床検査学科・臨床工学科 教員

内容: 教育関係機関より、いじめや不登校を生まない、望ましい学級集団を育てる基礎理論と具体的方法を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 日本診療放射線技師学術大会 」(連携企業等: 日本診療放射線技師会)

期間: 令和2年10月23日(金)～25日(日) 対象: 診療放射線学科 教員

内容: 日本診療放射線技師会が開催する学術大会への参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 学ぶ側の「主体性」「満足度」「理解力」を引き上げる 」(連携企業等: 日総研)

期間: 令和2年11月15日(日) 対象: 診療放射線学科・臨床検査学科 教員

内容: 教育系精神科医の講師より、人に伝わりやすいプレゼン・講義のコツ・組み立て方の基本を学ぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

中長期改善施策に基づき、年度初めに設定した自己点検・評価について、学校関係者評価委員会で適切な学校運営が進められているか評価と助言を受け、PDCAサイクルに基づいた改善策に取り組んでいく。(原則として5月に計画、9月前期まで実行、11月に中間報告に確認、その後は改善を行うため、年度において3回実施する学校関係者評価委員会で適

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像・職業教育の特色・関連業界のニーズ
(2) 学校運営	運営方針・事業計画・運営組織・人事・情報公開
(3) 教育活動	教育課程・教育理念・カリキュラム・関連団体との連携
(4) 学修成果	就職率の向上・資格取得率の向上・退学率の低減
(5) 学生支援	就職支援・学生相談・経済支援
(6) 教育環境	教育施設・教育設備・学習環境・防災体制
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動・学納金
(8) 財務	財務基盤・予算収支計画・会計監査・財務情報公開
(9) 法令等の遵守	法令遵守・専修学校設置基準遵守・自己評価
(10) 社会貢献・地域貢献	ボランティア活動・地域貢献・社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員より、意見として4年制教育への移行や国家試験に向けた学習指導および就職支援の充実を頂き、4年制教育への移行については、準備を開始した。また、学習支援については試験後の面接指導や放課後の学習指導を実施し、就職支援については、面接指導を開始した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
江藤 芳浩	日本診療放射線技師会 副会長	平成31(令和元)年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 元恭	大分県臨床検査技師会 会長	平成31(令和元)年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
房前 勲	へつぎ病院 臨床工学科 科長	平成31(令和元)年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
大平 智博	卒業生(第16期)	平成31(令和元)年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生
新納 龍二	保護者(後援会:副会長)	平成31(令和元)年4月1日～令和3年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:<https://iryounbu.ac.jp/img/disclosure/hyouka2019.pdf>

公表時期: 令和2年6月18日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

ホームページを開設し、常に情報提供を行う。さらに、SNSを活用しイベントの開催案内や実施後の様子などを配信し、広く社会に公開している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育目標
(2) 各学科等の教育	学科紹介・カリキュラム・資格情報・国家試験合格実績・就職実績
(3) 教職員	組織体制
(4) キャリア教育・実践的職業教育	臨床実習・進路探求セミナー
(5) 様々な教育活動・教育環境	学内実習施設・設備
(6) 学生の生活支援	提携アパート
(7) 学生納付金・修学支援	学納金・奨学金・修学支援制度
(8) 学校の財務	事業計画・報告
(9) 学校評価	学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会・自己点検・評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://iryounbu.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(医療専門課程診療放射線学科) 令和2年度															
分類	授業科目名	授業科目概要	欠・配 当・年 学 期	時 授 数	単 位 数	授業方法			場所		教員			企業 等 の 連 携	
						講 義	演 習	実 習	内 校	外 校	専 任	専 任	兼 務		
必修	選択	自由													
1	○			数学	解析学および統計学の基礎を学ぶ。医療分野で使用されている高度先端機器の構造と特性の理解には解析学が欠かせず、本科目ではその解析学に関する基礎力をつけることを目的とする。	1・通	45	2	○					○	
2	○			物理学	物理を通して自然科学の一部に触れることで、論理的思考を身につけることを目的とする。	1・通	45	2	○					○	
3	○			化学	基礎知識の習得に加え、身近に存在する化学反応から、化学が生活にとって重要な学問であることを理解していくことを目的とする。	1・前	22.5	1	○					○	
4	○			生物学	科学的、理論的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動を培うと同時に、生命倫理やヒトの尊厳を幅広く理解していく。	1・前	22.5	1	○					○	
5	○			人間関係学	グループワークなどを通して医療場面におけるコミュニケーションについて考察し、コミュニケーション能力を高めることを目指す。	1	45	2	○					○	
6	○			社会学	こんにちの社会福祉ではすべての人を対象に、その人らしい生活を送ることを目指しています。社会福祉の全体像を理解し、福祉活動への参加のきっかけになることを期待しています。	1・後	22.5	1	○					○	
7	○			英語 I	患者と接する際に必要な会話を、聴取と音読の繰り返しにより、英語のリズムに親しみながら、基礎的な専門用語と表現を学ぶ。	1・通	45	2	○					○	
8	○			英語 II	放射線診療時に必要とされる英語力を身につけることを主目的とし、四技能(聞く/話す/書く/読む)の中で、特に「聞く/話す」能力に重点を置いた実践的英語能力の習得を目指す。	1・後	22.5	1	○					○	
9	○			コンピュータ基礎演習	社会人として必須であるコンピュータを道具として使いこなす能力を身につける。ワープロソフト、表計算ソフト等の使用法を学習する。	1・通	45	2	○					○	
10	○			保健体育	ユニバーサルスポーツを学び、患者のQOLを支えることができる思いやりのある医療人の心を育てるとともに、防災や救急法などについても学ぶことを目標とする。	1・通	45	2		○	○			○	
11	○			臨床医学	医学がどのように発展してきたか、どのように成り立っているのか、本講義において医学全般とメディカルスタッフとしての基礎を理解する。	1・通	45	2	○					○	
12	○			公衆衛生学	人類の動向や日本の状況を集計されるデータより過去との比較、また現在の集団生活の状況を把握することにより、過去・現在・未来の私たちを取り巻く環境の変化を学習していく。	1・前	22.5	1	○					○	
13	○			解剖学	人体の各器官の構造、形態、機能について学習する。	1・通	45	2	○					○	



30	○		放射線生物学Ⅱ	放射線が生物に及ぼす影響について、発がんや遺伝的影響について、放射線治療と関連づけて学習する。	3・後	22.5	1	○			○		○					
31	○		放射線計測学	放射線検出器の検出原理、諸特性、計測方法について理解することを目的とする。	2・通	45	2	○			○		○					
32	○		放射線計測学特論	放射線計測学、放射線物理学等で学んだ放射線計測の基礎知識をさらに深め、放射線（能）を科学的に定量的に高精度で実践的な測定評価ができることを目標とする。	3・後	22.5	1	○			○		○					
33	○		放射線計測学実験	放射線計測学、線量計測学で学んだ放射線計測の基礎知識をさらに深めるために、実際に測定機器を使用し、放射線の量、エネルギー等を測定する。	2・前	45	1				○	○		○				
34	○		放射線撮影学Ⅰ	診療放射線技師として、専門職の自覚を持ち、医療現場において診断能の高いX線画像診断を医師に提供し、チーム医療に貢献する職責を全うできる知識を身につける。	1・通	45	2	○			○							○
35	○		放射線撮影学Ⅱ	どのように医用画像が得られるのかを理解し、立体的に体の諸臓器や諸器官の構造を理解することを目的とする。また、機器の概要及び各検査の撮影法と特徴について学習する。	2・通	45	2	○			○			○				
36	○		放射線撮影学特論	X線撮影、IVR、CTなどの画像技術はもちろんのこと、診療放射線技師の業務に加えられている骨塩定量測定検査についても講義を行う。	3・後	22.5	1	○			○		○					
37	○		画像診断学	臨床の場でよく見られる疾患を中心に、必要な知識と画像上の具体的な疾患の特徴・チェックポイントなどを解説し、実践に役立つ画像診断能力の向上を目指し講義を進めていく。	3・後	22.5	1	○			○			○				
38	○		診療画像機器学Ⅰ	X線診断装置、眼底写真診断装置について学習し、各種装置において物理工学的特性と得られる画像の画質特性などの関係を理解する。	1・通	90	4	○			○			○				
39	○		診療画像機器学Ⅱ	X線画像処理装置、CT装置、核磁気共鳴診断装置（MRI装置）、超音波画像診断装置について学習し、各種装置において物理工学的特性と得られる画像の画質特性などの関係を理解する。	2・通	45	2	○			○			○				
40	○		診療画像機器学特論	X線診断装置、X線CT、MRI装置、超音波画像診断装置、眼底写真診断装置について学習し、臨床現場での実践的な知識として応用できることを期待する。	3・後	22.5	1	○			○			○				
41	○		診療画像機器学実験	診療画像検査機器について、実験により各種画像機器の構成、動作原理および物理工学的特性を理解することを目的とする。	3・後	45	1				○	○		○				
42	○		診療画像検査学	MRI・超音波・眼底装置によりどのような画像が得られるのかを理解し、立体的に体の諸臓器や諸器官の構造を理解することを目的とする。	2・通	45	2	○			○			○				
43	○		診療画像検査学特論	MRI検査、超音波検査、眼底カメラ検査を軸に画像技術および読影技術について講義をおこなう。	3・後	22.5	1	○			○			○				
44	○		核医学検査学	基本的な核医学の知識を習得し、更に細かな検査法についても踏み込んで学習していく。これにより、核医学検査の内容を理解し臨床においてより質の良い医療の提供を目指す。	2・通	45	2	○			○			○				



45	○		核医学機器学	核医学検査機器の原理や使用機序を理解することで、核医学検査学における諸検査が正しく行えることを目標とする。	2・通	45	2	○			○		○						
46	○		核医学検査技術学特論	基本的な検査法はもとよりそれぞれの検査に使用される薬剤の体内での機構についても詳しく説明していく。核医学検査学と本講でより実践的に核医学検査を理解することができる。	3・後	45	2	○			○		○						
47	○		放射線治療技術学	がん患者の現状及びがんの特性、様々な放射線照射技術、疾患別による具体的な照射方法などを学習し、臨床現場で役立つ治療技術の要所を習得することを目的とする。	2・通	45	2	○			○		○						
48	○		線量計測学	線量計の特性および構造、線量測定用語から線量分布の測定と利用方法、光子線、電子線、密封小線源を使用した任意の点における吸収線量の線量計算など幅広い知識の習得に努める。	2・後	22.5	1	○			○		○						
49	○		放射線治療機器学	放射線治療装置全般からその照射関連補助具の使用方法を学習し、安全かつ精度の高い放射線治療が行えるように品質保証・品質管理方法についても学習する。	2・前	22.5	1	○			○		○						
50	○		放射線治療技術学特論	最善な放射線治療が遂行できるようにその基盤を築くとともに各団体から出版されているガイドラインについても理解を深めていく。	3・後	45	2	○			○		○						
51	○		画像工学	臨床で画像診断や画像解析に携わる診療放射線技師に必要な画像および情報工学の基礎を理解することを学習到達目標とする。	1・通	45	2	○			○		○						
52	○		医用画像情報学	基本的物理特性の定量的・定性的解析法を習得する。さらに総合的画質評価法やROC解析のような視覚的評価法を理解・習得する。	2・通	45	2	○			○		○						
53	○		医用画像情報学特論	臨床で用いられる医用画像の成り立ちに必要な画像処理、および医療情報システムの知識の習得を目的とする。	3・後	45	2	○			○		○						
54	○		放射線関係法規	放射線障害防止法を中心に学習し、医療の現場で必要となる医療法施行規則および診療放射線技師法の理解を目標とする。	1・通	45	2	○			○		○						
55	○		放射線安全管理学	医療施設において安全に患者さんや医療スタッフが検査に望めるような放射線管理が行えるための知識を身につけていく。	2・通	45	2	○			○		○					○	
56	○		放射線安全管理学特論	放射性物質を取扱うことで生じる放射性廃棄物の処理法やモニタリング等の知識について学習するとともに、関係法令を含めた放射線安全管理について総合的に理解を深める。	3・後	22.5	1	○			○		○					○	
57	○		医療安全管理学	診療放射線技師も日頃起こったヒヤリとした経験、インシデントやアクシデントに至った事例を分析し、共有することによって医療安全能力を向上させる。	1・前	22.5	1	○			○		○						
58	○		臨床実習	診療画像検査・核医学検査・放射線治療の3分野において実践的教育を行う。また、患者に対する対応技術を習得する	3・前	360	8				○		○					○	
59	○		学内実習	学内実習では、放射線撮影学、診療画像検査学、医療安全管理学、診療画像機器学で学習した内容について実習を通して理解を深める。	2・通	90	2				○		○					○	
合計					59科目	2610 単位時間( 103 単位)													

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：3年以上在籍し、本校教育課程のすべての単位を修得したもの	1 学年の学期区分	2期
履修方法：授業時数の2/3以上の出席と成績評価がC以上のものに単位を与える	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。